

令和 2 年度

東北公益文科大学 地域共創センター事業報告



東北公益文科大学

Tohoku University of Community Service and Science

目次

< ページ >

令和 2 年度地域共創センターの活動	1
地域共創センター事業報告一覧表	4
事業報告書（ヒアリング及びマッチング事業）	5
（公益教養プログラム FORUM21）	7
（共創カフェ）	13
（学生活動支援）	16
（サービスラーニング支援事業）	19
（地方創生に向けた人材育成事業「ハタラクカタチ」）	22
受託事業・補助事業の報告	23
発行物のご案内	26
新聞記事	27

令和 2 年度地域共創センターの事業は
庄内開発協議会「公益のふるさとづくり活動補助金」
の助成を受けて行ないました

地域共創センターの活動

地域共創センター

センター長	吉村 昇
地域連携部会長	澤邊 みさ子
産学連携部会長	小野 敦
ブランディング部会長	広瀬 雄二
防災・環境部会長	呉 尚浩

(1) 地域共創センターの役割

令和 2 年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の 4 部会での活動を開始した。

① 地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として、社会・地域課題の解決に取り組む。

② 産学連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

③ ブランディング部会

地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みを継続的に推進する。

④ 防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

(2) 地域連携部会の各種事業

① ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和 2 年度は 39 件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

② 「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」各種シンポジウム

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和 2 年度は「公益教養プログラム FORUM21」を 6 回開催した。また、学生主体で運営を行った「共創カフェ」を 2 回開催した。

③ 「学生活動支援学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営事業

学生活動支援のための競争的資金制度については令和 2 年度はコロナ禍において学外での活動がしづらかったため、1 件の助成となったが、学生の自発的な地域貢献活動へ助成することができた。「学情システム」に採択助成金、活動内容、活動実績等に関する情報を掲載し、「ディプロマ・サプリメント」「ポートフォリオ・サマリー」への反映が行われるよう、教務学生課とシステムの連動に関する検討については、今後も検討を継続する。

④ サービスラーニング支援事業

コロナ禍において、学生が必要なスキルを身につけたり SNS で発信したりするために研修会等の学習機会を設けた。学生団体内でのコミュニケーションが活発になるだけで

なく、個々のスキルアップにもつながった。

⑤地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和2年度は、10社を訪問しインタビュー取材を実施して記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol.2」を発行した。本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。

⑤受託事業・補助事業

「舟形町住民主体の地域づくり事業（舟形町）」、「地域共創コーディネーター養成プログラム（鶴岡市）」、「ボランティアコーディネーション力3級検定業務（酒田市社会福祉協議会）」を受託した。また、補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会）」の採択を受けた。

⑥学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのFacebook、市報、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信し、積極的な発信を行った。令和2年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ vol.2」、「Liga 食品ロス削減チーム活動報告書」、「Praxis 活動報告書」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

(3) 産学連携部会の各種事業

①共同研究・受託研究の推進

産学連携を目指す研究分野の検討を行い、受託研究・共同研究の推進を図った。結果、下記に示す受託研究3件および、共同研究3件の契約を締結し研究を行った。
なお、笹川平和財団からの受託研究2件は、樋口講師が推進した案件である。

〈受託研究〉3件

- ・ 笹川平和財団からの受託研究（海洋政策）：樋口講師
- ・ 笹川平和財団からの受託研究（海洋白書）：樋口講師
- ・ 山形県建設業協会酒田支部からの受託研究：斉藤准教授

〈共同研究〉

- ・ 飛島建設株式会社との共同研究：斉藤准教授
- ・ 株式会社荘内日報社との共同研究：門松准教授
- ・ 株式会社丸高との共同研究：三木教授

(4) ブランディング部会

①地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みの継続

櫛引地区黒川能の舞をモーションキャプチャ装置でデジタル化し、後世に残す取り組みや羽黒地区松ヶ丘開墾場の歴史的価値をアーカイブ化する取り組みを継続してすすめた。コロナ禍において学外での取材・データ収集活動を制限される状況が続いたが、学内での設計構築作業に向けた作業を進めた。プロジェクト型応用演習「地域の記憶を紡ぐ」では、黒川能の特徴やそれらをデジタル化することの意義や手法の基礎などを学

んだ上でその応用について考察する教育を展開した。また、情報技術について学んだ知識を統合し、現実社会に資する情報システムを設計・実装する「情報処理特講」では、地域の歴史を、現代を生きる人々の想いを反映させた形で提示する手法などについて授業を通じて考察と実装を進めた。

②受託事業

「地域 IT 人材等育成事業（酒田市）」を受託し、事業を推進した。

※受託事業の報告 参照

(5) 防災・環境部会

①自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ 防災

大学周辺地区（宮野浦小学校学区）における防災・減災（水害・地震・津波）のあり方について、学習会、ワークショップ、現地調査を実施した。また、学生による Web 地図を用いた防災マップ作成を行った。

ロ 環境

プロジェクト型応用演習「海洋ごみ問題解決のための行動計画」で、学生が「第3次山形県循環型社会推進計画」策定に関して提案を行った。

令和２年度地域共創センター事業報告

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
1	6月13日（土）	14:00～ 16:00	SAKATA Tech Night #2001 「データ分析用PC組み立て + テレワーク環境の整備」	オンライン開催	3
2	7月31日（金）	13:10～ 14:40	公益教養プログラム FORUM21 「Webセミナーの開き方」 ※SAKATA Tech Night共催	オンライン開催 ※対面受講は学内者のみ(ラーモンズ)	55
3	10月9日（金）	9:30～ 15:00	地元高校情報科生徒のメディア情報コース体験プログラム	酒田キャンパス 103教室	40
4	10月21日（水）	15:15～ 16:30	公益教養プログラム FORUM21 「ニュージーランド短期語学留学報告会」	酒田キャンパス 103教室	50
5	10月28日（水）	15:15～ 16:30	サービスラーニング支援事業 「フリーライターに聞く！魅力が伝わる文章の書き方講座」	公益研修センター 中研修室1	40
6	11月2日（月）	18:00～ 20:00	SAKATA Tech Night #2003 「3Dプリンタに挑戦してみよう！」	オンライン開催	8
7	11月24日（火）	13:00～ 14:30	公益教養プログラム FORUM21 「幕臣と明治政府ー行政的側面から明治維新を考えるー」	公益研修センター 中研修室1	52
8	11月24日（火）	9:30～ 15:00	メディア情報コース学生と市内IT関連企業等との交流事業	酒田キャンパス 103教室	40
9	12月18日（金）	19:00～ 20:30	公益教養プログラム FORUM21 「English PronunciationーWhy, and How to Improve it」	公益研修センター 中研修室2	10
10	12月23日（水）	15:15～ 16:30	サービスラーニング支援事業 「スマホで簡単 ♪LINEスタンプ制作講座」	公益研修センター 中研修室1	17
11	1月13日（水）	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2004 「IoTデバイスを作ってみよう！」	オンライン開催	10
12	1月22日（金）	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2005 「熱溶解積層方式の3Dプリンタに挑戦！」	オンライン開催	6
13	2月2日（火）	10:00～ 10:30	学生活動支援助成金 公開プレゼンテーション及び審査会	本部棟 地域共創センター	－
14	2月8日（月）	13:30～ 15:00	共創カフェ 「食品ロス勉強会」	酒田キャンパス 103教室	10
15	2月11日（木）	10:30～ 12:00	公益教養プログラム FORUM21 「ロビン・フッド伝説の起源とイギリス中世の森」	公益研修センター 公益ホール	130
16	2月11日（木）	13:30～ 15:00	公益教養プログラム FORUM21 「わたしたちは 今 どこにいるのかージェンダーの視点からー」	公益研修センター 公益ホール	210
17	3月3日（水）	12:00～ 14:00	共創カフェ 「10年目の3.11を考える」	新世紀館 ファカルティクラブ	7
18	3月4日（木）	13:30～ 15:00	産学連携事業「庄内地域企業と東北公益文科大学との合同勉強会」	出羽商工会藤島支所	－
19	3月10日（水）	10:00～ 17:00	ビジネスマッチ東北2021春	夢メッセみやぎ	－
20	3月24日（水）	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2006 「2020年度の総まとめ」	オンライン開催	6

事業名	ヒアリング及びマッチング事業	
目的	ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施協力を行う。	
	ヒアリング内容	依頼・相談者
1	山形県警察大学生サイバーパトローラー募集について	山形県警察本部生活安全部 サイバー犯罪対策課
2	庄内創生オンライン知事室 参加学生について	山形県庄内総合支庁
3	「メッセージプロジェクト」への協力依頼について	酒田市まちづくり推進課
4	「酒田市公益活動推進補助金」の2次審査員の就任について	酒田市まちづくり推進課
5	ボランティアサークル等との連携について	第一生命㈱新酒田営業オフィス
6	学習支援員派遣のお願いについて	藤島地区自治振興会
7	「インターナショナル・おはなし・リレー」について	酒田市地域創生部交流観光課
8	英会話のオンラインイベントについて	酒田市地域創生部交流観光課
9	「酒田市文化芸術推進サポーター」の募集について	酒田市教育委員会 社会教育文化課
10	秋のボランティア体験 2020 について	酒田市ボランティア・ 公益活動センター
11	知事と若者の地域創生ミーティングについて	遊佐町 企画課
12	Sakata アートマルシェ 2020 運営スタッフ募集について	酒田市教育委員会 社会教育文化課
13	「島キャンプオンライン」参加者の募集について	合同会社とびしま
14	若者の仕事・就職・回帰に関する意識調査 への協力依頼	株式会社フィデア情報総研
15	酒田小さな親切の会 2020 クリーン作戦実施について	酒田小さな親切の会
16	令和2年度「光ヶ丘松林整備ボランティア」募集について	酒田市農林水産部農林水産課
17	「やまがた避難者支援協働ネットワーク」意見交換会参加について	山形県防災危機管理課
18	ホストタウン動画制作にかかる撮影協力について	酒田市地域創生部交流観光課
19	酒田市 バリアフリーマップ作成について	酒田市地域創生部交流観光課
20	ひがしねあそびあランド 子育てを考える連続講座（オンライン）について	特定非営利活動法人 クリエイトひがしね

	ヒアリング内容	依頼・相談者
21	若年女性県内就職促進協議会への学生推薦について	山形県庄内総合支庁
22	2021 年酒田花火ショー実行委員の募集について	酒田花火ショー実行委員会
23	地域ボランティア（砂防林を育てよう）の募集について	山形県庄内総合支庁
24	酒田まちなかプロジェクト株式会社 共同研究の依頼	株式会社丸高
25	六十里越街道 観光資源プロジェクトメンバー募集について	出羽の古道 六十里越街道
26	酒田市総合計画策定に係る市民アンケート調査分析等業務委託の依頼について	酒田市企画部企画調整課
27	小林青少年善行奨励賞表彰対象者への推薦依頼について	酒田市教育委員会
28	「医療従事者への感謝・応援のメッセージ」募集について	酒田市まちづくり推進課
29	「心のバリアフリー」オンラインセミナーの開催について	酒田市地域創生部交流観光課
30	大学生・高校生が考える「酒田・庄内観光プランコンテスト」の開催について	酒田市地域創生部交流観光課
31	「高校生と地域の若者とのワークショップ」への参加依頼について	山形県庄内総合支庁
32	『脳の健康教室』教室サポーター募集について	社会福祉法人 正覚会（ライフケア黒森）
33	「オンラインセミナー」への参加学生募集について	山形県みらい企画創造部 移住・定住推進課
34	ゲートボール再生プロジェクトについて	山形県ゲートボール協会
35	「ソーシャルデザイン講座」参加者募集について	アートコミュニティ 酒田実行委員会
36	「居合抜き体験」の学生募集について	山形県庄内地域おこし有志の会
37	「学校見学の希望」について	鶴岡市第三学区 コミュニティ振興会
38	「インターナショナル・おはなし・リレー」について	酒田市地域創生部交流観光課
39	山形オンライン環境展 出展者募集について	山形県環境エネルギー部循環型 社会推進課

事業名		公益教養プログラム FORUM21		
目的		課外の教養講座として実施しているもので、学内外の講師による幅広いテーマのプログラムを開催する。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	講師	役職・職名
1	7月31日 (金) 13:10～14:40	「Web セミナーの開き方」	三浦 彰人	本学特任講師
2	10月21日 (水) 15:15～16:30	ニュージーランド語学留学報告会	語学留学 参加学生	本学学生
3	11月24日 (火) 13:00～14:30	「幕臣と明治政府 -行政的側面から明治維新を考える-」	門松 秀樹	本学准教授
4	12月18日 (金) 19:00～20:30	「English Pronunciation - Why, What and How to Improve it」	フェック・エドモンド	本学講師
5	2月11日 (木・祝) 10:30～12:00	最終講義 「ロビン・フッド伝説の起源と イギリス中世の森」	遠山 茂樹	本学教授
6	2月11日 (木・祝) 13:30～15:00	最終講義 「わたしたちは 今 どこにいるのか -ジェンダーの視点から-」	伊藤 眞知子	本学教授

FORUM2 1 活動報告書		担当者	進藤 啓
事業名	オンラインサービスを活用した「Web セミナー」の開き方		
開催日時	令和2年 7月 31日 13:10 ～ 14:40		
会場	オンライン開催（学内者のみラーモンズでの対面受講も可）		
目的	新型コロナウイルス感染拡大のため、対面でのセミナー開催が難しくなっている昨今、オンラインサービスを有効活用し、有意義なセミナーを開催するためのノウハウを学ぶ。		
内容	・ビデオチャットとライブ配信の違い ・ライブ配信の始め方 ・配信品質を高めるために ・配信環境を向上するには		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 特任助教	
	氏名	三浦 彰人	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	55名		
感想	学生、教職員以外にも多くの参加者を得て、オンライン受講48名、対面受講（学内者のみ）7名の合計55名にご参加いただいた。また、オンライン開催ということもあり、庄内地域に在住の方だけでなく、県外の方にもご参加いただくことができた。 参加者アンケートでは、「これから将にWEBセミナーを開催していきたいと思っていたのでとてもタイミングが良かった」、「講座などをオンラインで開催する予定で、機材について詳しい職員もおらず試行錯誤していたところだったので、配信環境の整え方が特に勉強になりました」、「コロナ禍でやらざるを得なくなって始めたオンライン・ミーティングですが、地方都市の課題の解決の一助になるかも、という三浦先生のご意見に同感です。」のような意見が寄せられた。 また、山形新聞にて、7月29日に開催告知記事、8月7日に当日の様子を紹介する記事を掲載いただいた。		

FORUM2 1 活動報告書		担当者	長岡 和香子	
事業名	幕臣と明治政府 —行政的側面から明治維新を考える—			
開催日時	令和2年 11月 24日 13:00 ～ 14:30			
会場	公益研修センター 中研修室1			
目的	今年度着任された教員の新任紹介も兼ねて、門松准教授より、専門分野である「江戸幕府と明治政府の間の行政的連続性に関する研究」についてお話いただく。			
内容	明治維新前後の政治と役割と行政の役割について、幕臣の知行形態、幕臣の登用、幕臣の役職など、開拓使の事例等を交えながら解説いただいた。			
講師	所属・職名	東北公益文科大学 准教授		
	氏名	門松 秀樹		
主催	東北公益文科大学 地域共創センター			
協力団体				
参加人数	52名			
感想	コロナ禍である為、先着70名とし、1ヶ月前に申込を開始し、南洲神社、図書館（酒田市、鶴岡市）等へ広報活動をし、一般参加者45名、教職員参加者7名、合計52名にご参加いただいた。 参加者アンケートでは、「明治維新もこのような視点から見るとおもしろいですね。」、「1回の講義だけでなく、5回、10回連続で門松先生の考える明治維新についてお話を伺いたい。」、「江戸～明治について新しい視点で知ることができた。」のような意見が寄せられた。 また、酒田市報、コミュニティ新聞、荘内日報、山形新聞にて、開催告知記事を掲載いただいた。			

FORUM2 1 活動報告書		担当者	長岡 和香子	
事業名	English Pronunciation - Why, What and How to Improve it			
開催日時	令和2年 12月 18日 19:00 ～ 20:30			
会場	公益研修センター 中研修室2			
目的	昨年度本学にて「ベストティーチャー賞」を受賞したフェック・エドモンド講師による「教員（小学校、中学校、高校）のための英語発音講座」を実施する。			
内容	様々な英語話者がいる現代において、英語教育のなかで発音を教育する必要性から掘り下げ、最新の研究成果も交えながら、ネイティブ英語話者にとって聞き取りにくい日本のカタカナ英語の紹介や様々な英語発音教育の手法が紹介された。			
講師	所属・職名	東北公益文科大学 講師		
	氏名	フェック・エドモンド		
主催	東北公益文科大学 地域共創センター			
協力団体				
参加人数	10名			
感想	参加者との対話形式で進められ、「発音指導の上での工夫をたくさん教えていただき、授業の中で試してみたい」「英語を母国語とする人、そうでない人両方の視点が大事であることがわかった」などの意見が寄せられた。			

FORUM2 1 活動報告書		担当者	長岡 和香子	
事業名	最終講義「ロビン・フッド伝説の起源とイギリス中世の森」			
開催日時	令和3年 2月 11日 10:30 ～ 12:00			
会場	公益研修センター 公益ホール			
目的	2001年の大学開学時より長年本学のためにご尽力いただいた遠山茂樹教授、伊藤眞知子教授が、今年度をもって定年退職されます。そこで、お二方の最終講義を下記のとおり開催いたします。これまでのご研究、教育・実践活動等についてお話しいたします。			
内容	「ロビン・フッド伝説の起源とイギリス中世の森」 (在学生・教職員・卒業生のほか、公開講座として市民の方も参加。また、遠方の方も参加できるようオンラインを併用して行った。)			
講師	所属・職名	東北公益文科大学 教授		
	氏名	遠山 茂樹		
主催	東北公益文科大学 地域共創センター			
協力団体				
参加人数	130名（オンライン併用）			
感想	forestの成り立ちや、ロビン・フッドは実在したのか、義賊であるロビン・フッド像はいかにしてできたかなどについて、時折ユーモアを交えながら説明されました。冒頭で「普段通りの講義を」と遠山教授がおっしゃった通り、膨大な資料を基にした豊富な知識にあふれた講義で、歴史の面白さを改めて感じられた時間となった。			

FORUM2 1 活動報告書		担当者	長岡 和香子
事業名	最終講義「わたしたちは 今 どこにいるのかージェンダーの視点からー」		
開催日時	令和3年 2月 11日 13:30 ～ 15:00		
会場	公益研修センター 公益ホール		
目的	2001年の大学開学時より長年本学のためにご尽力いただいた 遠山茂樹教授、伊藤眞知子教授が、今年度をもって定年退職されます。 そこで、お二方の最終講義を下記のとおり開催いたします。 これまでのご研究、教育・実践活動等についてお話しいたします。		
内容	「わたしたちは 今 どこにいるのかージェンダーの視点からー」 (在学生・教職員・卒業生のほか、公開講座として市民の方も参加。また、遠方の方も参加できる ようオンラインを併用して行った。)		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 教授	
	氏名	伊藤 眞知子	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	210名（オンライン併用）		
感想	新型コロナウイルス感染拡大により、ジェンダー課題に与えている影響や世界と日本との比較、公益を実現していくための展望など、幅広い視点でお話いただきました。ジェンダーバイアスの無い男女共同参画社会に向けて、私たち市民がすべきことへの提言となった。		

事業名		共創カフェ	
目的		FORUM21 より小規模で双方向形式の教養講座。学内外の講師や本学学生による幅広いテーマのプログラムを開催する。	
	開催日	タイトル名・テーマ等	①主催者②講師
1	2月8日（月） 13:30～15:00	「みんなで減らそう！ 食品ロス勉強会」	①Liga 食品ロス削減チーム ②山形県循環型社会推進課リサイクル推進専門員 吉田正樹氏
2	3月3日（水） 12:00～14:00	「10年目の3.11を考える」	①災害復興支援団体チーム moreE

共創カフェ活動報告書		担当者	進藤 啓
事業名	「みんなで減らそう！食品ロス勉強会」		
開催日時	令和3年2月8日(月) 13：30～15：00		
会場	103 教室		
目的	まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」について、日本では年間 612 万トン（R2 年 4 月環境省発表）が廃棄されていると推計されている。食品ロスの現状・取り組みを知り、私たちができることは何か一緒に考える。		
内容	山形県リサイクル推進専門員 吉田氏をお招きし、環境省・各自治体等の取り組みや食品ロスの現状についての講演を拝聴。「第3次山形県循環型社会形成推進計画」についてもご説明をいただく。 Liga 食品ロス削減チームのこれまでの取り組みについて紹介する。		
講師	所属・職名	山形県 循環型社会推進課 リサイクル推進専門員	
	氏名	吉田正樹さん	
主催	Liga 食品ロス削減チーム/地域共創センター		
協力団体			
参加人数	10 名		
感想	日本全体の取り組み、山形県のこれまでの取り組み・今後の計画について、知識を得ることができた。また、Liga が今後取り組む予定の、ドギーバッグの推進活動についても、先進事例を紹介いただくことができた。 参加学生の感想からは「1 人 1 人が意識し、家庭から出る食品ロスを減らしたい」「食品ロスについて、世界と比較して卒業論文を作成する予定なので勉強になった」とあった。 Liga の今後の活動に活かしていただきたい。		

共創カフェ活動報告書		担当者	長岡和香子
事業名	「10 年目の 3.11 を考える」		
開催日時	令和 3 年 3 月 3 日(水) 12:00~14:00		
会場	ファカルティクラブ		
目的	東日本大震災から今年で 10 年。あの日を風化させないために、チームモアイメンバーを中心に考える会を開催します。		
内容	チームモアイの元代表である 4 年生の後藤千花さん、金子要さんからこれまでの復興活動についてお話していただきました。 また、チームはちまきの佐藤さんが毎年、被災地を訪問する活動をしており、学生が書いた寄せ書きを一緒に届けてもらいます。		
講師	所属・職名		
	氏名		
主催	災害復興支援団体チーム moreE/地域共創センター		
協力団体			
参加人数	7 名		
感想	復興支援団体チーム moreE の活動の振り返りについて、4 年生と現在のメンバーで確認ができて良かった。参加学生の感想からも「チームとつながりのある人や活動への思いなどを卒業する前に 4 年生から聞くことができ良かった。」「コロナ禍で制限はあるが積極的にこれからも活動していきたい。」とあった。 今回の振り返りから気づいたことや感じたことなどを今後の活動に活かしていきたい。		

事業名	学生活動支援		
目的	本学学生の意欲的な自主活動を支援することで、本学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実を図る。		
	助成金・補助金	事業の目的	採択件数
1	学生活動支援助成金	地域共創センターでは、大学の活性化を目的とした本学学生による自主活動及び本学学生と地域との協働によるまちづくり活動を支援するため、学生からの具体的な活動に関する申請に対し、選考の上、「学生活動支援助成金」として活動経費の一部の助成をすることとする。	1 件

【学生活動支援助成金採択一覧】

No.	申請日	団体	活動実施代表	活動内容	支出額
1	1 月 19 日	Liga 食品ロス削減チーム	2 年 阿部 武宣	ドギーバッグの周知	45,880 円

1. 活動の名称	ドギーバッグの普及活動
2. 実施期間	令和2年 2月 1日 から 令和2年 3月 31日 まで
3. 具体的な活動内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) ドギーバッグの購入 ・海外では飲食店での食べ残しを持ち帰るための容器であるドギーバッグを使用し、自らの責任の下で持ち帰るという習慣があることを知った。しかし、日本ではこの習慣があまり見られることが無い。この習慣が食品ロス削減に繋がるためこの活動をするに至った。そのための活動の第一歩として、料理を持ち帰ってもらうための容器を購入した。購入場所は酒田市の包装資材店ナイスパックすがえで合計で1000箱購入した。  イラストの印刷 ・ドギーバッグの表面に貼るためのキャラクターが描かれているステッカーの制作を行った。このステッカーを作成するの当たり、東北芸術工科大学の学生団体に協力を依頼しお手伝いいただいた。完成したステッカーをもとにドギーバッグのサイズに合うようにサイズの修正を行った。これを印刷した。今後実際に貼り付け、実使用していこうと考えている。  自己責任カードの作成 ・ドギーバッグを用いて、持ち帰る際に飲食店の責任ではなく、持ち帰る人の責任において持ち帰る意思表示用のカードを作成した。海外でもこのカードが主流であるため、ドギーバッグ普及委員会のホームページより印刷した。まだ試作段階であるため紙のカードであり、完成には至っていない。ゆくゆくは名刺程度のカードにして何回も使えるようなカードにしていこう。 
4. 活動の成果	・私達学生でデザインしたオリジナルのドギーバッグを完成させることが出来た。 ・ドギーバッグの制作にあたり、循環型社会推進課の方を講師として呼びし、食品ロスの勉強会を開き、全国のNPO法人によるフードバンク活動をはじめとした食品ロス削減にむけた活動が実施されていることを学んだ。また、その活動の中にはドギーバッグの作成も含まれており、環境にやさしい材料で容器の制作を行っていることや、自由にデザインをしてオリジナルのドギーバッグを作成していることを知り、どのように制作を進行していくかのヒントにすることができた。 ・箱と表紙に貼るステッカーは完成し、実行に移すため、個人経営の飲食店を中心にドギーバッグを店内に置いてもらえるか、現在もメンバーと協力して調査を継続している。近日中の設置の実現を目指していきたい。

■災害ボランティア

7月28日の記録的な豪雨により、大きな被害に見舞われた地域の社会福祉協議会からの要請を受け、8月5日（水）、9日（日）に災害ボランティアを派遣し、支援活動を行いました。

【大江町】

日程：8月5日（水）活動場所：大江町内 作業内容：家屋等の泥出し
鶴岡市ボランティアセンターが手配するボランティアバスで移動。

参加者：教職員1名

【大蔵村】

日程：8月9日（日）活動場所：大蔵村内 作業内容：家屋等の泥出し、ゴミ出し
酒田市ボランティアセンターが手配するボランティアバスで移動。

参加者：学生4名

■海ごみ清掃ボランティア

授業やサークル活動で宮野浦海岸、浜中海水浴場などの海ごみ清掃を行いました。



事業名		サービスラーニング支援事業		
目的		ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会を開催。学生の自発的活動、地域貢献活動の支援を行なう。		
	開催日	タイトル名・テーマ等	講師等	役職・職名
1	10 月 28 日 (水) 15:05～16:30	「フリーライターに聞く！魅力を伝える 文章の書き方講座」	長谷川 結氏	フリーライター
2	12 月 23 日 (水) 15:05～16:30	「スマホで簡単♪LINE スタンプ制作講座」	佐藤 浩子氏 佐藤 洋輔氏	ひろまるデザイン

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	長岡和香子
事業名	「フリーライターに聞く！魅力を伝える文章の書き方講座」		
開催日時	令和2年10月28日(水) 15：05～16：30		
会場	中研修室1		
目的	コロナ禍の中、みんなで集まって何かをすることが難しい状況なので、自分磨きをする場として、広く一般の学生にも周知し、サービスラーニング支援事業として開催したい。この学びは、文章の「読解力」、「表現力」のスキルアップを期待する。		
内容	講義前半は、出羽庄内地域文化情報誌「クレードル」のライターでもある講師の仕事内容や自己紹介をしていただき、実際に書いた記事を用いて庄内の魅力も合わせてお話いただいた。 講義後半は、実際に文章を書く練習をした。長谷川さんの取材メモを読み600字詰め原稿用紙に商品紹介を書くというもの。		
講師	所属・職名	イト吉デザインラボ	
	氏名	長谷川 結さん	
主催	地域共創センター		
協力団体			
参加人数	40名		
感想	普段な何気なく見ているフリーペーパーだが、どのような工程で作られているのか、実際に聞くことができて良かった。 また、「クレードル」の記事を紹介しながらのお話だったので、「こんな場所が庄内にあるなんて知らなかった」という声もあった。 参加者した学生からは、「文章を書く際のコツを知ることができて良かった。」「スクリーンに映る雑誌の1ページ、1ページにとっても心が躍りました。見て楽しめる写真と心に響く言葉がとても印象に残りました。相手（読み手）のことを考えて素敵な文章を書ける人になりたいと改めて思いました。」などの声が多くあった。		

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	長岡和香子
事業名	「スマホで簡単 ♪LINE スタンプ制作講座」		
開催日時	令和 2 年 12 月 23 日 (水) 15：05～16：30		
会場	中研修室 1		
目的	コロナ禍の中、みんなで集まって何かをすることが難しい状況なので、自分磨きをする場として、広く一般の学生にも周知し、サービスラーニング支援事業として開催したい。この学びは、「創造力・企画力」のスキルアップを期待する。		
内容	「スマホで簡単 ♪LINE スタンプ制作講座」 ※同講座は女性の副業収入、好きなことを仕事にしようというサンロクで人気の講座。 ※今回は学生向けにアレンジして実施していただく。		
講師	所属・職名	ひろまるデザイン	
	氏名	佐藤浩子さん、佐藤洋輔さん	
主催	地域共創センター		
協力団体			
参加人数	17 名		
感想	普段何気なく使っている LINE スタンプを自分で簡単に作れるということで、コツを教 えてもらいながら、イラストや写真を持ち寄り、実際に制作した。 参加した学生からは、「自分が普段使っている LINE スタンプがこんなにすぐすぐ作れ ることにビックリした!」、「サークル独自のスタンプを作ってみたいと思った」の 声があった。今回学んだことを様々な活動に活かしていただきたい。		

事業名	地方創生に向けた人材育成事業 「ハタラクカタチ」プロジェクト
目的	学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和2年度は、10社を訪問しインタビュー取材を実施して記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol.2」を発行した。本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。
内容	①「ハタラクカタチ」プロジェクトの組織化 ②プロジェクトメンバーによる勉強会の開催、情報収集・ヒアリング等による企業研究 ③企業への説明・協力依頼 ④企業への取材 ⑤取材企業の冊子作成、若者を中心とした市民への発信 ⑥報告書の作成、発信活動
プロジェクトメンバー	4年：成澤 芽衣 3年：長南 大輝、五十嵐 聡美、井上 侑、高橋 あかり 2年：池田 詩穂 1年：小林龍永、伊藤美羽、佐々木美里、鈴木遥、瀬川捷、関明日香 橘愛海、長谷川琴音
取材先企業	【社長編】 ・株式会社東洋開発 ・酒田米菓株式会社 ・株式会社はなはな ・鶴岡シルク株式会社 【従業員編】 ・特定非営利活動法人がくほれん with 酒田 ・株式会社チェンジ・ザ・ワールド ・ホテルリッチ&ガーデン酒田 ・株式会社山形ハーネス ・株式会社庄内測量設計舎 ・鶴岡商工会議所 (順不同) 「ハタラクカタチ vol.2」は こちらから
冊子	発行部数：2,600 部

地域共創センターが関わる令和２年度受託事業・補助事業について、報告します。

■受託事業

事業名	地域共創コーディネーター養成プログラム構築事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	鶴岡市
実施期間	令和２年８月５日～令和３年３月３１日
契約金額	220,000 円
概要	「地域共創コーディネーター養成プログラム」は、人口減少、少子高齢化が進む地域コミュニティにおいて課題を解決しようとする住民等の間の課題の共有と対話を推進する「ファシリテーション」役割を担い、多様な個人や組織の連携・協働を促進し、課題解決の実践を仕掛けることができる「コーディネーション」役割を果たす人材を育成することを目的とし、平成 28 年度より開講している。6 年目となる令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、プログラムの核となる大学院科目「共創の技法」及び「合意形成・コーディネーション論」が休講となったが、6 年間のまとめとして、特別講座を実施した。

事業名	地域 IT 人材等育成事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市
実施期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 2 月 26 日
契約金額	9,600,000 円
概要	本学の高度な情報技術を活かした各種講座、研究を通じ、地域で活躍できる IT 人材育成をするとともに、若者の地元定住を促進することを目的とし、令和 2 年度より受託している。 4 つの履修証明プログラム（「データサイエンスに係る講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）の開講、「IT に関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内 IT 関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大生が IT を活用して地域課題解決に取り組むプログラム」の 8 事業を展開した。

事業名	ボランティアコーディネーション力 3 級検定業務
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市社会福祉協議会（酒田市ボランティア・公益活動センター）
実施期間	令和 2 年 6 月 30 日～令和 3 年 3 月 31 日
契約金額	300,000 円
概要	平成 27 年度より「地域共創コーディネーター養成プログラム」の「コーディネーション研修」として認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会共催の「ボランティアコーディネーション力 3 級検定」を開講していたが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「地域共創コーディネーター養成プログラム」は中止としたが、単独でも開催するべきであるという関係者の判断に基づき、感染症対策を講じた上で、上記事業を実施した。 令和 2 年度は酒田市社会福祉協議会より「ボランティアコーディネーション力 3 級検定業務」を受託する形で実施した。チラシ配布、新聞記事、酒田市社会福祉協議会広報誌、大学ホームページへの記事掲載等の方法で一般参加者を募集した結果、申込者は 44 名であった。検定受験者は 42 名（2 名欠席）、検定合格者は 35 名であった。

事業名	舟形町住民主体の地域づくり事業コーディネート業務
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	舟形町
実施期間	令和 2 年 4 月 9 日～令和 3 年 3 月 29 日
契約金額	837,152 円
概要	舟形町は平成 29 年に国の地方創生交付金を活用し、「官民協働・地域間連携による住民主体の地域づくり推進事業」の 4 ヶ年計画を策定した。本事業のねらいは少子高齢化・人口減少という現状において、これからの地域づくりについて地域住民と行政が一体となって話し合いを進めて行き、地区計画の策定や地域運営組織の構築などにより、住民主体の地域づくりを推進することである。平成 30 年度より本学との「舟形町住民主体の地域づくり事業コーディネート業務」委託契約を行っている。最終年度である令和 2 年度も引き続き、伊藤眞知子教授と武田真理子教授及び地域共創センター職員が担当者となり同コーディネート事業の委託契約を締結し、地域共創コーディネーターの協力を得て、舟形町職員（ワーキング・チーム）の研修、事業推進に必要な企画会議のファシリテーション、その他のコーディネート業務を担い、舟形町における住民主体の地域づくりの推進に貢献した。

■補助事業

事業名	令和 2 年度 公益のふるさとづくり活動補助金 「地域共創による公益のふるさとづくり推進」事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	庄内開発協議会
実施期間	令和 2 年 6 月 12 日～令和 3 年 3 月 31 日
契約金額	600,000 円
事業目的 及び概要	東北公益文科大学では開学以来、学生と教職員が地域をフィールドに研究、教育と地域貢献活動を実施してきた。その中で、地域共創センターは、地域と大学を結ぶ窓口として、また、地域と大学の連携活動の活動拠点としての役割を果たしている。 令和 2 年度公益のふるさとづくり活動補助事業では、地方創生に向けた人材育成事業を継続するとともに、これまで同様に本学の地域との協働・共創活動を実践している各事業を支援することにより、本学の地域共創における公益のふるさとづくり活動がさらに進展するよう取り組んだ。令和 2 年度はコロナ禍において学内外での活動がしづらい状況であったが、その中でできることを模索しながら活動した。 地方創生に向けた人材育成事業については、令和元年度に引き続き、本学学生で組織する「ハタラクカタチプロジェクト」のメンバーが、若者の視点で庄内地域の企業の魅力や庄内で働くことの魅力を伝えることを目的に 10 社（うち 4 社は社長）へインタビュー取材を行い、冊子にまとめた。 「公益教養プログラム FORUM21」は教員の企画・運営により 6 回開催、「共創カフェ」も学生主導で 2 回開催した。

地域共創センターが令和2年度に発行したパンフレットや冊子を紹介します。

	発行物	内容	作成担当
1	地域共創センターパンフレット	地域共創センターの事業紹介	地域共創センター 事務室
			
2	冊子 ハタラクカタチ Vol. 2	庄内地域企業の魅力紹介	ハタラクカタチ プロジェクト
			
3	冊子 ETHICAL vol. 4	Praxis（プラクシス）の活動紹介	Praxis
			
4	Liga（リーガ）食品ロス削減チーム リーフレット	Liga 食品ロス削減チームの活動紹介	Liga 食品ロス削減 チーム
			